

第18回 JCHOりつりん病院地域協議会 議事録

開催日 令和7年3月13日(木) 14時55分～16時20分

開催場所 JCHOりつりん病院 本館3階会議室

出席者 【院外】

溝口晶仁(高松市医師会)・里石めぐみ(行政/高松市保健所)・柴田正紀(利用者)

【院内】

大森院長・因藤副院長・田村副院長・三谷看護部長・足立事務長
阿部薬剤部長・宮武栄養管理室長・宮西事務長補佐(総務)

欠席者 横井徹(医療機関)

- 議題
- (1) あいさつ
 - (2) 概況報告について(次年度の体制について)
 - (3) 患者動向・経営状況について
 - (4) 高松市における食形態連携の現状と今後について
 - (5) 市民公開講座の開催について
 - (6) その他
 - ・高松平和病院の栗林地区からの移転について
 - ・次回の開催について

概要

(1) あいさつ (大森院長)

病院経営は物価高騰もあり、非常に厳しい状況にあります。地域協議会は、地域の皆様のご意見を聞かせていただく貴重な時間ですので、よろしくお願ひします。

(2) 概況報告について (大森院長: 添付資料を基に説明) ※資料省略

1. 令和7年度の体制

執行部交代⇒副院長: 因藤(定年退職)、看護部長: 三谷(転出)→舘野(転入)
常勤医師の異動⇒内科: 井端(転出)→伴(転入)、整形外科: 東田(転出)→福岡(転入)、眼科: 野田(転出)→三好(転入)、健康管理センター: 田中(R6年11月転入)、高野(R7年1月転入)

2. 病院機能評価(3rdG Ver3)の受審準備

第3期中期目標期間(2024～2028年度)の目標の一つ「医療の質・安全管理体制の拡充に向けた取り組み」の項目にある「全ての病院が病院機能評価等の第三者評価の認定を受けることとする」に対応したものである。

2024年9月の執行部会で受審決定。受審日は2026年2月

2025年2月7日にkick-off meetingを開催し、スケジュール表を提示した。

3. JCHO りつりん病院 事業継続計画（BCP）（令和6年10月8日完成）

南海トラフ巨大地震を対象危機事象としたもの。

香川県医療救護計画（資料2）に基づき、自院の機能を維持し、広域救護病院としての役割を果たすことを目的とする。

平時のBCP管理体制（りつりん病院災害予防対策委員会運営規程）および、発災時（高松市で震度6弱以上）の体制（りつりん病院災害対策本部運営規程）からなる。

（外部委員）

高松市医師会では災害拠点場所に診療所の医師を派遣する計画を策定しています。

（外部委員）

実際に災害が起きた場合には、地域住民が避難所目的で病院に集まることも想定されると思うので、避難所への誘導が必要となるかもしれません。

4. 健康管理センター改革

院長がセンター長を兼任。常勤医2名（2024年11月、2025年1月）の雇い入れ
腹部エコー所見、心電図所見の報告方法の整備、二次健診外来を実施

5. 主な修繕（前回以降）

- ・健康管理センターの県道160号線沿いの壁面にタイル剥落防止ネットを設置
（2024年11月末）
- ・汚水管通気管修繕（2025年2月末）

（3）患者動向・経営状況について（足立事務長：添付資料を基に説明）※資料省略

（大森院長）

病院経営で「増収・減益」という言葉をよく聞きますが、患者数は維持できても、物価が高すぎて減益となってしまっている状況になっています。

損益分岐点の患者数が増えてきています。

（外部委員）

物価が上がっているのので、国の方で診療報酬を上げてもらうしか対策はないです。

(4) 高松市における食形態連携の現状と今後について

(宮武栄養管理室長：添付資料を基に説明) ※資料省略

高松市における食形態連携の活動をしましたので報告いたします。

この内容は、昨年12月にあなぶきホールで開催されました、香川県地域包括ケアシステム学会の学術集会で発表させていただいたものです。今回のテーマは「人口減少社会における持続可能な地域包括ケアシステムを考える」というものでした。

持続可能な食の連携を考え、この活動を行いました。

近年、高齢化等に伴い急性期病院から療養型病院への転院や、自宅退院が難しくなり施設入所、あるいは自宅退院後に在宅系サービスを利用されるケースが多くみられます。各病院、施設では患者の摂食・嚥下能力に応じた多様な食形態での食事を提供されています。

令和2年の診療報酬改定では地域包括ケアシステム推進のための取り組みとして、栄養情報提供加算が新設され、令和6年の改定では、さらに医療と介護の連携を推進するために点数が上がり、各病院の栄養士によって栄養情報提供書が作製されるようになりました。入院中の栄養管理について記されており、転院先や退院先の施設、かかりつけ医など必要なところへ送っています。しかし、その内容や食事の名称はさまざまで、適切な食事の選択に悩むことがしばしばあります。例えば、転院前の病院では「やわらか食」を食べていた、と連絡があったとします。やわらか食というと、やわらかい食事だろうなとは思いますが、どの程度のやわらかさなのか、嚥下に注意が必要なのかよくわかりません。今回、高松市食形態連携を始めたきっかけは、このような当院での日々の悩みからでした。

当院は全国に57あるJCHOグループ病院のひとつで199床の二次救急病院です。

一般病棟に入院した患者はそれぞれの病状に応じて、回復期リハビリテーション病棟あるいは地域包括ケア病棟へ転棟し退院調整を行っていきます。

入院時は、添付されているサマリー等から現在の食事内容や食形態についての情報を得ています。しかし先ほども申しましたように、施設ごとに名称は様々で、適切な食形態を把握するまでに時間がかかりますし、安全な食形態の提供ができるか不安もあります。また退院調整において、現状の食事形態が退院先の病院や施設で対応可能かどうか調整を行う場合もあります。転院される以前にどのような栄養管理をされていたのか、また退院先で対応可能な栄養管理ができているのかを検討する際に、共通の食形態の一覧、食形態マップのようなものがあれば、栄養管理のプランを提示しやすく理解しやすいのではと考えるようになりました。

食形態マップとは、

▶各施設の食形態が一目でわかる対応表で、施設間同士で正確に把握し、伝えることができる

- ▶医療、介護、福祉に携わる多職種が同じ情報を共有することを目的とする
 - ▶日本摂食嚥下リハビリテーション学会分類 2021 のガイドラインを基準に分類し作製したもの
- このようなものを食形態マップと呼んでいます。

日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類の早見表です。
食事は5段階7分類をコード表記しとろみは3段階に分類しています。
先ほどの「やわらか食」が、前の病院ではコード3の食事だということがわかれば、名称は違っても同じコード3の食事を提供すれば良いということになります。

まずは高松地域における食形態連携を行うために、市内28病院を対象に、共通の食形態マップを作りませんか、一緒にやりませんかと参加依頼をしました。

9病院、15名の管理栄養士が手を挙げていただき、ワーキンググループができ、第1回会議を開催しました。

第1回会議では、改めて目的をすり合わせ、食形態マップのフォーマットや運用、今後さらに連携を広げる場合の参加施設への依頼方法等について検討しました。

共通に使うフォーマットは石川県能登地域の様式を参考に検討しました。

主食と副食は別々に表記する、下部の特記事項の欄を大きめに取り、コード別の表記以外にも伝えたい情報について自由に記載できるようにする、表はできるだけすっきりさせる、などの意見が出ました。例えば、副食の刻み方も病院や施設によって違うため、自分の施設の刻み方について特記事項に記載されている施設もあります。

こうしてフォーマットが完成し、まずはワーキンググループの各施設でマップの作製を行い、当院へ送っていただきました。

さらに食形態マップ作製依頼を行い、あらたに7病院が作製に参加表明をいただき、うち4病院のマップが完成しています。高松市では合計13病院のマップが完成しました。参加が困難な理由としては、業務が多忙である、人員の問題、対象者がほとんどいない、必要性を感じていないなどでした。

第2回会議では、現状報告と今後の運用について話し合いました。

医療機関だけでなく福祉施設との共有が必要、さらに、県内の他の地区の病院にもマップ作製を依頼し、マップを活用する施設を増やすことで連携をとりやすくする、などの意見が出ました。その手段として、県栄養士会の活用案が出ました。せっかく立ち上がったこの連携を途絶えさせず、さらに広げていくためには県栄養士会の事業としてやっていってはどうかと考え提案したところ承認されました。現在は栄養士会医療部の事業としてすすめています。

その後です。県内5地区のうち、県西部の西讃地区では今年度、「食形態マップ作りの会」を開き、資料を持ち寄ってマップを作っていくことになりました。ほかの施設の食事を見ながら一緒に作っていくことで、同職種連携ができます。県東部の東讃、県中部の中讃も現在活動を始めていますし、来年度は小豆地区でも勉強会を行います。

東讃では、県立白鳥病院、三木町の三木山荘でもマップが完成しています。

また、今年度は8月12日に栄養士会研修会を行い、グループワークもしました。

日頃情報提供をしている施設や病院の栄養士と顔の見える関係づくりも大きな収穫でした。これは来年度も引き続き行っていく予定です。当院では、県立中央病院や高松日赤病院からの下り搬送される患者も多いです。患者の食事に関する情報を地域連携室のソーシャルワーカーや外来の看護師が受け取った際に、栄養管理室へ問い合わせが来ます。その際、この食形態マップがあるので同様の食形態の食事をスムーズに提供できており、たいへん役に立っています。

食形態に配慮する必要のある患者は、今後も増加が予測されます。

患者ひとりひとりの状態に対応した食事を、入院した、転院した、あるいは退院したその日から提供していくことが理想です。そのために、この食形態マップをさらにブラッシュアップしてより使いやすいものにしていきたいと思っています。お手元に届く機会がありましたらぜひご覧いただき、様々な立場の方のご意見を伺いたいです。

現在、香川県栄養士会のホームページにも掲載しています。

高松市には、在宅医療コーディネーターという資格を持った医療の専門職がいます。

在宅で医療や介護が必要な患者とその家族に、必要な医療・介護サービスを組み合わせ提供する役割を担っています。当院にもこの資格を持っている者が何人かいますが、今年度から栄養士もその仲間の一員となり、私を含めて市内で4人の管理栄養士がコーディネーターとなります。病院にいても、福祉施設にいても、自宅にいても切れ目の無い食の連携をしていきたいと考えています。

(外部委員)

これは老人施設も積極的に参加していけばいいと思いますよ。刻み食でも各施設で違うので、同じような食形態で提供されるのは、誤嚥性肺炎予防にもつながると思います。

(大森院長)

食形態マップの整合性の部分では、どうですか？

(宮武栄養管理室長)

整合性については、研修を開催したり、みんなで検証を行っています。最初の方は修正が必要なケースもありました。その都度、栄養士会のホームページも更新しております。

(5) 市民公開講座の開催について (足立事務長：添付資料を基に説明)

長らく開催できておりませんでした、市民公開講座を今年度より再開いたしました。今年度第1回目として1月24日に栗林コミュニティセンターにて、大森院長より「心房細動について」をテーマにお話しいただきました。

第2回目の市民公開講座は、3月24日栗林コミュニティセンターにて、保健師の中村亜紀子さん、鎌田貴子さんによる「クイズ これってホント！ みんなで生活習慣病の発症や重症化を予防しよう」をテーマに開催する予定としております。

市民公開講座開催の広報として、院内のデジタルサイネージやポスター張り出し、栗林コミュニティセンターでのチラシ設置、病院ホームページでの案内、四国新聞へのイベント開催情報掲載を手段として利用しております。

令和7年度以降も定期的な市民公開講座開催を目指して企画して参ります。

(外部委員)

医師会でも自治会と連携して、新規に開業した先生方に講演していただいています。診療所のアピールにもなっています。りつりん病院も整形外科系の講座も開いていけばアピールになる。

(6) その他

- ・高松平和病院の栗林地区からの移転について（足立事務長：添付資料を基に説明）
資料のみんなの健康という広報紙は香川医療生活協同組合が発刊している広報紙となります。2024年7、8月号の紙面と11、12月の紙面に高松平和病院の移転に関する記事が掲載してありましたので、資料としております。

まず、7、8月号より「高松平和病院の移転用地確保についてのご報告」として、事務理事の方が書かれた記事となっており、高松市上福岡町のモリシゲ家具工場跡地を新病院建設に向けた用地を確保したとの内容となっております。

次に11、12月号より「高松平和病院移転予定地に行ってきましたパート1」として、組合員活動部の方が書かれた記事となっており、上福岡町に移転した際の病院へのアクセスに関する課題等を挙げられております。

これらの広報誌記事により、高松平和病院の移転先である上福岡町のモリシゲ家具工場跡地の現況を確認してきました。

現況は敷地はフェンスで覆われており、工場建物の解体工事が進められているようでした。

解体工事期間は令和6年11月から令和7年8月末となっており、現在は解体工事期間中であることがわかりました。解体工事完了が令和7年8月末となりますので、そこから建物基礎工事、躯体工事を経ることを勘案すると竣工時期は令和9年度中位になるのではないかと予想されます。

高松平和病院が栗林地区から移転することに伴い、栗林地区にどのような診療機能を残していくことになるのかまだ情報はございませんが、少なからず栗林地区での診療

機能がパワーダウンすることが予見されます。

- ・ 次回の開催について （足立事務長）

令和7年秋ごろを予定しております。事前に開催日の調整をさせていただきたいと思
いますので、よろしくお願いいたします